

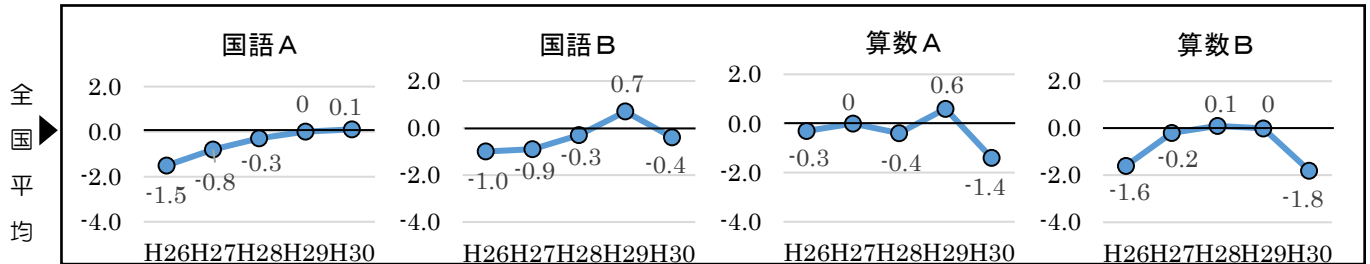
# 平成30年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた対応等について

## I 調査結果及び本県の課題等

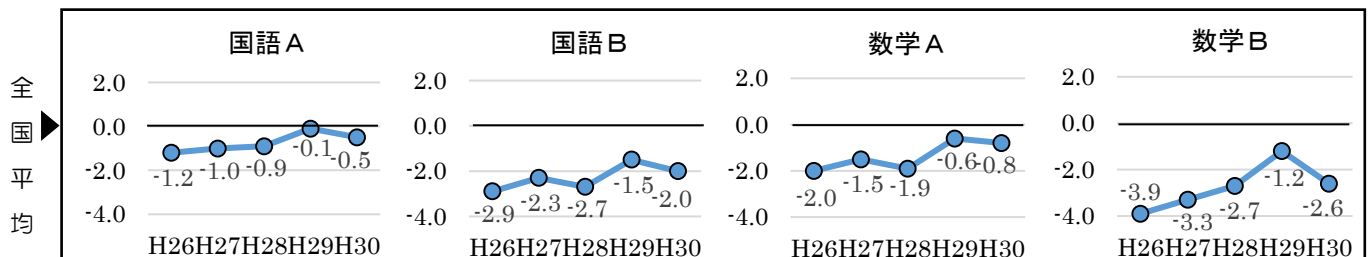
### 1 学力状況

- (1) 小学校：国語は全国平均並みであるが、算数は全国との差が拡大した。
- (2) 中学校：全科目で全国平均を下回り、特に活用型のB問題で全国との差が大きい。
  - ・ 全国平均と県全体（岡山市を含む。）の平均の差の推移

#### ○小学校



#### ○中学校

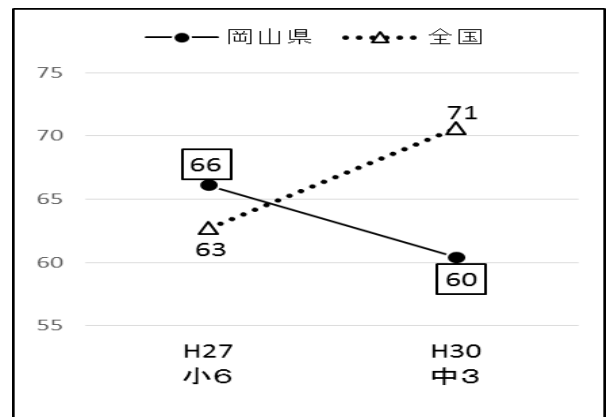


### 2 学習状況

- (1) 学習習慣の定着
  - ・ 中学校では、小学校6年時と比較し、授業以外に1時間以上勉強している生徒の割合が減少し、全国平均を下回った。

※普段、1時間以上勉強すると回答した生徒の割合

H27 (小6) 66.1% (全国62.7%)	↓	↓
H30 (中3) 60.4% (全国70.6%)		



### 3 結果から見られた本県の課題

- (1) 全ての小・中学校で、その学年で身に付けるべき学習内容がどの程度身に付いたかを11月頃に把握し、その年度末までに確実に身に付けさせる取組が不十分であった。
- (2) 特に、中学校において、「岡山型学習指導のスタンダード」に基づいた授業改善が十分に行われていないことと、「家庭学習のスタンダード」に基づいた家庭学習の指導改善が進んでいないことが課題である。

## Ⅱ 今年度の取組

### 1 授業改善と学習習慣の定着を図る取組の充実

- (1) 指導主事が中学校を訪問し、「岡山型学習指導のスタンダード」に基づいた授業を全ての教員が行うよう、管理職等に指導を徹底した。
- (2) 併せて、全ての生徒が1時間以上家庭学習をするよう、「家庭学習のスタンダード」に基づいて、家庭学習につながる授業改善や宿題の出し方、点検評価方法に関して共通理解を図り、校内で統一した取組を行うよう、管理職等全教員への指導を徹底した。

- ・「授業」→「宿題」→「小テスト」→「補充学習」という短いサイクルで基礎学力を身に付けさせる。
- ・提出された宿題に適切なコメント・評価・指導するなど、すぐにフィードバックを行い、生徒の家庭学習への意欲を喚起する。

### 2 学力定着状況の把握と改善の徹底

- (1) 11月に、全ての小・中学校において、身に付けるべき学習内容がどの程度身に付いたかを過去の全国調査問題を活用して調査し、結果を分析させた。
- (2) その結果を受け、各学校に対し、県教委作成の復習用プリント教材集等を活用して、課題のあった学習内容を3学期に復習するよう指導している。

## Ⅲ 来年度の取組の方向性

### 1 授業改善と学習習慣の定着を図る取組の充実

- (1) 中学校における「岡山型学習指導のスタンダード」・「家庭学習のスタンダード」の徹底に加え、B問題に対する活用力向上のため、授業改革推進チームの拡充により、管理職等全教員への指導を徹底する。
- (2) 学習習慣形成モデル校等での好事例を基に、中学校での宿題の出し方・点検評価方法を定型化し、「家庭学習のスタンダード」の改訂を行い、全中学校への普及及び徹底を図る。

### 2 学力定着状況の把握と改善の徹底

- (1) 各学年で身に付けるべき学力の状況を、秋に把握し、年度内にその学年の学習内容の確実な定着を図るため、「学力定着状況確認テスト」を実施する。  
県教委が国語、算数・数学の全国調査B問題を中心としたテストを提供し、各学校が小4～中2を対象に実施し、採点・結果分析を踏まえて、年度内に復習を行う。